

平成28年度 事務事業評価表

事業No. 108

記入日 平成 29 年 6 月 24 日
 記入者 氏名 山本 智康

1 事務事業の位置付け <Plan ①>

| 重点 | 事務事業名 | 担当課室名 | 新規・継続 | 事業開始年度 | 完了(予定)年度 | 事業区分 |
|----------------------|------------------------------|------------------|-------------------------------|------------------------|-----------------|-----------|
| | 木のまちプロジェクト推進事業(繰越含む) | 産業観光振興課 農業振興室 | 新規 ○ 継続 | 平成 23 年度 ○ 平成24年度以前 | 平成 年度 ○ 継続予定 | ソフト事業(任意) |
| まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け | | | 第4次総合計画 施策の大綱の位置付け | | | |
| 基本目標 | 基本目標 I 地域経済を活性化し、安定した雇用を創出する | 政策 | 政策 2. 自然・環境・産業が調和した持続可能なまちづくり | | | |
| 講ずべき施策 | ②基幹産業の強化による地域経済の活性化 | 基本施策 | 基本施策 2. 吉野の魅力を活かした産業の振興 | | | |
| 主要な取り組み | ウッドスタート、木育推進、林材業者と調査研究等 | 施策 | 施策 1. 農林漁業の振興 | | | |

2 事務事業の概要 <Plan ②>

| | |
|---|--|
| 対象 (誰・何を対象として) | 林業・木材産業に係る者及び町民 |
| 意図 (対象をどのような状態にしたいのか) | ①吉野材の魅力の認知拡大・情報発信②吉野材の魅力に触れる機会の創造③まち全体で木のある暮らしを表現④未来を担う子どもたちの地場産業への誇りと郷土愛の育み⑤吉野材の魅力の見える化・付加価値向上 |
| 手段 (対象を意図する状態にするため、どんな業務・活動をしたか) | 町制60周年を木育元年と位置づけ、木材利用促進やPRイベントを実施した。木材の付加価値調査実施。3歳児までの子どもに、木のおもちゃをプレゼント。こども園に木製玩具の贈呈。木育キャラバンの開催。(木育推進)他町村への木製品のPR活動を行った。木の駅プロジェクトへの補助金とサポート。 |
| 役割分担 (まちづくり基本条例に基づき、個人、地域とどのような役割分担をして事業推進したか) | 個人レベル 県内の自治体に先駆けて木育事業(木材利用促進や木製玩具製作等)の推進に努めました。 町内会レベル 木材利用促進に向けての取組に協力 自治協レベル |

3 年度別計画と事業費 <Do ①>

事業期間：平成 28 年度～平成 32 年度

| 単位 | | H28(決算) | H29(予算) | H30(見込) | H31(見込) | H32(見込) |
|------------|---|---|--|--|--|--|
| 総費用 | | 12,138 | 22,644 | 88,960 | 106,260 | 103,960 |
| 費用内訳 | 直接事業費 | 千円 8,178 | 18,684 | 85,000 | 102,300 | 100,000 |
| | 人件費 | 3,960 | 3,960 | 3,960 | 3,960 | 3,960 |
| | (関与人数) | 人 0.50 | 0.50 | 0.50 | 0.50 | 0.50 |
| 財源内訳 | 国・県支出金 | | 651 | 100 | 100 | 100 |
| | 地方債 | | | | | |
| | その他 | | 11,966 | 17,100 | 20,400 | 20,400 |
| 一般財源 | | 12,138 | 10,027 | 71,760 | 85,760 | 83,460 |
| 指標1単位あたり費用 | 関連事業費① | 千円 5,084 | 22,644 | 88,960 | 106,260 | 103,960 |
| | 指標値②(公共木質化) | 件 1 | 5 | 7 | 9 | 10 |
| | ①÷② | 千円 5,084 | 4,529 | 12,709 | 11,807 | 10,396 |
| 全 | 木育推進に向けて、木とのふれあいイベントの開催や公共施設での町内産木材の利用促進を行います。また、木材関連計各種組合等と協議会を発足させて、新商品の開発、販路開拓、国内外の新市場の開拓を進めていきます。 | ・公共施設の木質化 ・魅力発信拠点施設の整備・木のおもちゃ推進補助制度の創設 他 | ・魅力発信拠点施設の整備・公共施設の木質化・木のまち推進補助金・木育玩具の設置・イベント等の開催 他 | ・魅力発信拠点施設の整備・公共施設の木質化・木のまち推進補助金・木育玩具の設置・イベント等の開催 他 | ・魅力発信拠点施設の整備・公共施設の木質化・木のまち推進補助金・木育玩具の設置・イベント等の開催 他 | ・魅力発信拠点施設の整備・公共施設の木質化・木のまち推進補助金・木育玩具の設置・イベント等の開催 他 |

4 事業の評価指標 <Do ②>

(上段:目標、下段:実績)

| 指標名 | 単位 | 基準値 H27年度 | H28 | H29 | H30 | H31 | H32 |
|----------------------|----|--------------|------------|-----|-----|-----|-----|
| ファーストイ配布(誕生祝い品) | 人 | 0 | 84 113 | 40 | 40 | 40 | 40 |
| 木の駅 ^o 外出材 | t | 200 | 200 170 | 200 | 200 | 200 | 200 |
| 公共施設の木質化 | 件 | 0 | 1 1 | 3 | 5 | 5 | 5 |
| 杉の家視察受け入れ | 件 | 0 | 2 4 | 10 | 15 | 15 | 20 |

5 事務事業の事後評価 <Check>

| 評価の視点 | 項目 | 評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策 | 判定 |
|---|--|--|----|
| 継続実施の必要性 (事業廃止による影響はあるか、事業の緊急性や町民のニーズはあるか。) | <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である | 地方創生の社会情勢の中で、吉野は「木のまち」として将来の展望を描き事業を推進しています。人の育成・働く場所の増加を目指し、まちの未来を創造する意味でいえば、必要不可欠な事業であります。 | 2 |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い | | |
| 町関与の妥当性 (町が主体で取組むべき事業か。) | <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である | 町の将来像を描いた上での、事業構想であることから、町の関与は妥当であります。 | 2 |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い | | |
| 役割分担の適切性 (「個人」「地域」：町内会自治会レベル「地域」：自治協議会レベルが担える部分はないか) | <input type="checkbox"/> 適正である | 町・木材業界との課題の共有・役割分担に検討の余地があると感じています。今後は、個人レベルでの関わりを増やす機会を増大していく必要もあると考えています。 | 2 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 検討の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い | | |
| 目標・意図の達成度 (評価指標目標値やサービス水準の妥当性を勘案し、意図をどの程度達成しているか。) | <input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成している | 事業展開初年度としては、目標を達成しています。今後は、人の育成・仕事の増加を目指して、産業振興と教育分野の融合を進める必要があると感じています。 | 2 |
| | <input type="checkbox"/> 目標をやや下回った | | |
| | <input type="checkbox"/> 目標を大きく下回った | | |
| 手段の有効性 (現状の手段が最も有効か、他の手段により更に成果向上が図れないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である | プロジェクト事業の実施においては、木のある暮らしなど改めて感じていくことができ、有効な手段であります。 | 2 |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | | |
| 他団体との連携 (国・県・他市町村、企業、団体等との連携、活用により更に成果向上が図れないか) | <input type="checkbox"/> 適正である | 業界団体の課題を共有し、共に事業展開を行う体制作りが必要であります。 | 2 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | | |
| 業務の効率化 (業務手順、内容に見直しの余地はないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である | 現時点での業務内容でいえば、効率的に業務を遂行しています。今後長期的な事業展開を考えたとき、町民の関与(役割分担)を求めると感じます。 | 3 |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | | |
| 投入コストの適切性 (投入するコスト(予算・人件費)は適正か、削減の余地はないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である | 重点事業として、投入コストは、最低限で運営をしていると考えています。 | 3 |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | | |
| 財源の確保 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である | ふるさと納税起業版を活用した事業展開でもあります。また県の補助金も活用できるところは、積極的に活用しています。 | 3 |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | | |

6 改善及び事務事業の方向性 <Action>

評価者 課室長氏名 宮本憲一

| 総合評価と今後の方向性 | 妥当性 | | | | 業務改善についての今後の方向性 | | |
|---|-----------------------------|--------------------|----------|----|-----------------|-----------------|---|
| | | 0点 | 1点 | 2点 | 3点 | | |
| | 有効性・効率性 | いずれか0点 | D | C | C | C | ・新たな視点による木材関連産業の活性化を目指して、商品開発や販路開拓の確立や効果的な情報の発信に努めていきます。また、関係団体等と課題を共有し、担い手不足解消には、人材育成セミナーや専門知識取得研修に積極的な参加を促していきます。 |
| | いずれか1点 | C | C | C | C | | |
| | 合計4点 | C | C | B | B | | |
| | 合計5点 | C | B | B | A | | |
| | 合計6点 | C | B | A | A | | |
| | B 課題が少しあり業務の一部見直しが必要 | | | | | | |
| 前年度評価 | B | 前々年度評価 | B | | | | |
| 今後の方向性 | | 投入コスト | | | 成果の方向性 | | 重点事業として林業や製材業を活性化するために生産から木材需要の新たな流通経路の確立を行うこと。また、吉野杉の家を吉野材の魅力発信拠点として積極的なPR活動を行うこと。 |
| | | 皆減 | 縮小 | 維持 | 拡大 | コストの方向性(関与人件費含) | |
| | 向上 | | C | B | A | | |
| | 維持 | | E | D | | | |
| | 縮小 | | F | | | | |
| 休廃止 | G | | | | | | |
| A 成果向上・費用拡大 = 改善案(予算を増大してでも成果を上げる) | 前年施策評価方針 | B 成果向上・費用維持 | | | | | |

平成28年度 事務事業評価表

事業No. 109

記入日 平成 29 年 6 月 13 日

記入者 氏名 紙西 圭祐

1 事務事業の位置付け <Plan ①>

| 重点 | 事務事業名 | 担当課室名 | 新規・継続 | 事業開始年度 | 完了(予定)年度 | 事業区分 |
|----------------------|------------------------------|-------|------------------------------|------------------------|--------------------|---------|
| - | 吉野材の魅力発信拠点整備事業 | 総合政策課 | ○ 新規 継続 | 平成 28 年度 - 平成24年度以前 | 平成 28 年度 - 継続予定 | 建設・整備事業 |
| まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け | | | 第4次総合計画 施策の大綱の位置付け | | | |
| 基本目標 | 基本目標 I 地域経済を活性化し、安定した雇用を創出する | 政策 | 政策2. 自然・環境・産業が調和した持続可能なまちづくり | | | |
| 講ずべき施策 | ②基幹産業の強化による地域経済の活性化 | 基本施策 | 基本施策2. 吉野の魅力を活かした産業の振興 | | | |
| 主要な取り組み | 木材需要の拡大を推進します。 | 施策 | 施策3. 木材関連産業の振興 | | | |

2 事務事業の概要 <Plan ②>

| | |
|---|---|
| 対象 (誰・何を対象として) | 木材関連事業者 |
| 意図 (対象をどのような状態にしたいのか) | 吉野材の魅力発信拠点施設整備を行い、国内外の方に吉野材の魅力にふれ、木のある暮らしを体感できる機会を創出することにより、吉野材の認知拡大を図ります。 |
| 手段 (対象を意図する状態にするため、どんな業務・活動をしたか) | 吉野材の魅力と木のある暮らしの情報発信拠点として、HOUSEVISIONで展示された「吉野杉の家」を飯貝地区に移築、整備することにより、木材関連事業者を支援しました。また、運営については木材関連事業者を中心に構成されるRE:よしのと暮らし会に委託し、飯貝地区協力のもと運営をスタートしています。 |
| 役割分担 (まちづくり基本条例に基づき、個人、地域とどのような役割分担をして事業推進したか) | 個人レベル 同施設の運営についても地域住民が協力、参画しています。 町内会レベル 同施設を地域と委託者が一体となり取組を始めています。 自治協レベル - |

3 年度別計画と事業費 <Do ①>

事業期間：平成 28 年度 ~ 平成 28 年度

| 単位 | | H28 (決算) | H29 (予算) | H30 (見込) | H31 (見込) | H32 (見込) |
|------------|--------|-----------|----------|----------|----------|----------|
| 総費用 | | 24,958 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 費用内訳 | 直接事業費 | 千円 20,998 | | | | |
| | 人件費 | 千円 3,960 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | (関与人数) | 人 0.50 | | | | |
| 財源内訳 | 特定財源 | | | | | |
| | 国・県支出金 | | | | | |
| | 地方債 | 千円 19,400 | | | | |
| 一般財源 | その他 | 千円 500 | | | | |
| | | 千円 5,058 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 指標1単位あたり費用 | 関連事業費① | 千円 24,791 | | | | |
| | 指標値② | 施設 1 | | | | |
| | ①÷② | 千円 24,791 | | | | |

全体計画 吉野材の魅力と木のある暮らしの情報発信拠点として、HOUSEVISIONで展示された「吉野杉の家」を飯貝地区に移築、整備することにより、木材関連事業者を支援しました。今後、委託者の運営を適正に支援するとともに、木材需要の喚起と供給体制の構築に取り組めます。

施設整備以降の木材関連産業の取組は、木のまちプロジェクト推進事業に集約します、同事業は、企業版ふるさと納税を活用して実施する事業であり、地域再生計画（3カ年計画）において位置付けられている事業です。

4 事業の評価指標 <Do ②>

(上段:目標、下段:実績)

| 指標名 | 単位 | 基準値 H27年度 | H28 | H29 | H30 | H31 | H32 |
|-------------|--------------------|--------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 施設整備数 | 件 | - | 1 | | | | |
| 施設木材使用量(金額) | m ² (円) | - | 1 | | | | |
| 利用者数 | 人 | - | | | | | |
| 視察受入数 | 人 | - | | | | | |

5 事務事業の事後評価 <Check>

| 評価の視点 | 項目 | 評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策 | 判定 |
|---|---|---|----|
| 継続実施の必要性 (事業廃止による影響はあるか、事業の緊急性や町民のニーズはあるか。) | <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である | 同施設の活用等を含め、地域再生計画記載の木材関連産業に係る取組は継続する必要があります。 | 3 |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い | | |
| 町関与の妥当性 (町が主体で取組むべき事業か。) | <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である | 施設整備については行政が担い、今後の運営は町内の木材関連事業者を中心に構成されるRE:よしのと暮らし会に委託します。 | 3 |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い | | |
| 役割分担の適切性 (「個人」「地域：町内会自治会レベル」「地域：自治協議会レベル」が担える部分はないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である | 移築前から移築先の飯貝地区との調整を行い、当事業の実現に至っています。また、同施設運営についても地域協力のもとスタートしています。今後、地域との関わりを深めつつ、地域活性化の拠点としても活用されることが期待されます。 | 3 |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い | | |
| 目標・意図の達成度 (評価指標目標値やサービス水準の妥当性を勘案し、意図をどの程度達成しているか。) | <input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成している | 施設整備に関する事業であるため、当事業における目的は達成されています。しかしながら、当事業を通じて、吉野材の魅力と木のある暮らしを発信し、吉野材の認知を高め、木材需要を喚起していくことが重要です。 | 3 |
| | <input type="checkbox"/> 目標をやや下回った | | |
| | <input type="checkbox"/> 目標を大きく下回った | | |
| 手段の有効性 (現状の手段が最も有効か、他の手段により更に成果向上が図れないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である | 同施設は、有名建築家：長谷川豪氏、Airbnbが関わった経緯から集客力があり、HOUSE VISIONで約1ヶ月展示されたPR効果を含めば十分な広告宣伝効果があります。しかし、今後、来訪者にいかに吉野材の魅力を伝え、生活に取り入れてもらえるかが重要です。 | 3 |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | | |
| 他団体との連携 (国・県・他市町村、企業、団体等との連携、活用により更に成果向上が図れないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である | 同事業は、地域再生計画に位置付け、内閣総理大臣の認定を受け、国の制度的支援を受けています。また、奈良県からの引き合いで始まった事業であり、事業推進には、製材組合、木材関連事業者とも連携しています。 | 2 |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | | |
| 業務の効率化 (業務手順、内容に見直しの余地はないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である | 同事業ではHOUSEVISIONで展示された吉野杉の家の移築に関する取組と運営に向けた支援であり、効率化を図る点はありません。 | 2 |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | | |
| 投入コストの適切性 (投入するコスト(予算・人件費)は適正か、削減の余地はないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である | 同事業ではHOUSEVISIONで展示された吉野杉の家の移築に関する取組と運営に向けた支援であり、コストの削減余地はありません。 | 2 |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | | |
| 財源の確保 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である | 施設建築にあたっては買方組合からの寄附、移築にあたっては企業版ふるさと納税の寄附をいただいています。地域内の組合、事業者との役割分担のもと同事業を完了しました。 | 2 |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | | |

6 改善及び事務事業の方向性 <Action>

評価者 課室長氏名 小泉喜弘

| 総合評価と今後の方向性 | 妥当性 | | | | 業務改善についての今後の方向性 | |
|--------------------|--------------------|--------|----|----|--|--|
| | 0点 | 1点 | 2点 | 3点 | ・当該事業は、HOUSEVISIONで展示された「吉野杉の家」の移築に係る事業であり、単年度の取り組みになります。今後、施設の運営者と連携し、木材需要の喚起と供給体制の構築に取り組めます。 | |
| | 有効性・効率性 | いずれか0点 | D | C | C | C |
| A 業務の内容は適切である | いずれか1点 | C | C | C | C | ・「吉野杉の家」の活用に係る取組は、飯貝地区と木材関連事業者との連携が必要となるため、適切な支援を継続的にを行います。 |
| | 合計4点 | C | C | B | B | |
| G 終了廃止 = 終了・廃止・民営化 | 合計5点 | C | B | B | A | |
| | 合計6点 | C | B | A | A | |
| G 終了廃止 = 終了・廃止・民営化 | 前年度評価 | 前々年度評価 | | | 成果の方向性 | |
| | G 終了廃止 = 終了・廃止・民営化 | 投入コスト | | | コストの方向性(関与人件費含) | |
| | | 皆減 | 縮小 | 維持 | 拡大 | ・当該事業の目的である吉野材の魅力発信拠点施設（通称：吉野杉の家）の施設整備、条例等の整備、指定管理者への指定管理の手続き等は完了している。今後は、「木のまちプロジェクト推進事業」で、同施設の有効活用を図る。 |
| | 向上 | C | B | A | ・H29年度以降は同施設の維持管理に要する費用（警備保障業務委託料、修繕料等）を要する。（木のまちプロジェクト推進事業で予算措置。） | |
| 維持 | E | D | | | | |
| 縮小 | F | | | | | |
| 休廃止 | G | | | | | |

平成28年度 事務事業評価表

事業No. 110

記入日 平成 29 年 6 月 24 日
 記入者 氏名 山本 智康

1 事務事業の位置付け <Plan ①>

| 重点 | 事務事業名 | 担当課室名 | 新規・継続 | 事業開始年度 | 完了(予定)年度 | 事業区分 |
|----------------------|------------------------------|------------------|------------------------------|----------------------|-----------------|-----------|
| | 集落支援員(製材)事業 | 産業観光振興課 農業振興室 | 新規 ○ 継続 | 平成 27 年度 平成24年度以前 | 平成 年度 ○ 継続予定 | ソフト事業(任意) |
| まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け | | | 第4次総合計画 施策の大綱の位置付け | | | |
| 基本目標 | 基本目標 I 地域経済を活性化し、安定した雇用を創出する | 政 策 | 政策2. 自然・環境・産業が調和した持続可能なまちづくり | | | |
| 講ずべき施策 | ②基幹産業の強化による地域経済の活性化 | 基本施策 | 基本施策2.吉野の魅力を活かした産業の振興 | | | |
| 主要な取り組み | 製材業振興支援 | 施 策 | 施策3.木材関連産業の振興 | | | |

2 事務事業の概要 <Plan ②>

| | | |
|---|--|---------------------------------|
| 対象 (誰・何を対象として) | 地域及び地域住民(製材所) | |
| 意 図 (対象をどのような状態にしたいのか) | 地域内の連携を図り、木材需要の拡大、地域活性化に努める。 | |
| 手 段 (対象を意図する状態にするため、どんな業務・活動をしたか) | 地域の状況把握や課題などを調査し、吉野材の販路拡大や情報発信、地勢を活かした取組を行う。 | |
| 役割分担 (まちづくり基本条例に基づき、個人、地域とどのような役割分担をして事業推進したか) | 個人レベル | 集落支援員へ助言やアドバイスをを行い、林材業振興に努めていく。 |
| | 町内会レベル | 集落支援員と木材需要の拡大に努める。 |
| | 自治協レベル | 集落支援員と木の魅力発信をする。 |

3 年度別計画と事業費 <Do ①>

事業期間：平成 28 年度 ~ 平成 29 年度

| 単位 | | H28(決算) | H29(予算) | H30(見込) | H31(見込) | H32(見込) |
|--------------|---|----------|---------------------|---------|---------|---------|
| 総費用 | | 3,404 | 3,500 | 0 | 0 | 0 |
| 費用内訳 | 直接事業費 | 千円 3,166 | 3,262 | | | |
| | 人件費 | 238 | 238 | 0 | 0 | 0 |
| | (関与人数) | 人 0.03 | 0.03 | | | |
| 財源内訳 | 特定財源 | | | | | |
| | 国・県支出金 | | | | | |
| | 地方債 その他 | | | | | |
| 一般財源 | 千円 3,404 | 3,500 | 0 | 0 | 0 | |
| 指標1単位あたり費用 | 千円 | 3,404 | 3,500 | | | |
| 指標値②(活動参加者数) | 人 | 1 | 1 | | | |
| ①÷② | 千円 | 3,404 | 3,500 | | | |
| 全体計画 | 地場産業である製材業者と情報や課題を共有し、都市住民を対象とした産業ツアーや新たな視点による需要拡大に努めていきます。 | | ・製材事業者や関係団体と活動する費用等 | | | |

4 事業の評価指標 <Do ②>

(上段:目標、下段:実績)

| 指標名 | 単位 | 基準値 H27年度 | H28 | H29 | H30 | H31 | H32 |
|--------------|----|--------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 支援員人数 | 人 | 1 | 1 | 1 | | | |
| 木材関連イベントへの支援 | 回 | 0 | 3 | 5 | | | |
| 連携団体 | 団体 | 5 | 5 | 6 | | | |

5 事務事業の事後評価 <Check>

| 評価の視点 | 項目 | 評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策 | 判定 |
|---|--|--|----|
| 継続実施の必要性 (事業廃止による影響はあるか、事業の緊急性や町民のニーズはあるか。) | <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である | 町と地域のパイプラインとして、製材関係業界との調整役としての支援員の役割は非常に大きいです。 | 3 |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い | | |
| 町関与の妥当性 (町が主体で取組むべき事業か。) | <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である | 町の嘱託職員としての雇用関係から考えても、町が取り組むべき内容であります。 | 3 |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い | | |
| 役割分担の適切性 (「個人」「地域：町内会自治会レベル」「地域：自治協議会レベル」が担える部分はないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である | 支援員業務の役割分担は、町以外に検討の余地はないです。 | 3 |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い | | |
| 目標・意図の達成度 (評価指標目標値やサービス水準の妥当性を勘案し、意図をどの程度達成しているか。) | <input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成している | 製材業界とのパイプラインとしての役割と、PRや事業実施のサポート役として、目標を達成しています。 | 3 |
| | <input type="checkbox"/> 目標をやや下回った | | |
| | <input type="checkbox"/> 目標を大きく下回った | | |
| 手段の有効性 (現状の手段が最も有効か、他の手段により更に成果向上が図れないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である | 支援員の業務内容から考えると、手段や成果に問題はないです。 | 3 |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | | |
| 他団体との連携 (国・県・他市町村、企業、団体等との連携、活用により更に成果向上が図れないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である | 製材業界の支援員として、業界との連携は十分に果たせています。 | 3 |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | | |
| 業務の効率化 (業務手順、内容に見直しの余地はないか) | <input type="checkbox"/> 適正である | 町の方向性や事業計画との連携が図れない部分がありました。 | 2 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | | |
| 投入コストの適切性 (投入するコスト(予算・人件費)は適正か、削減の余地はないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である | 支援員としての、国の基準に合わせた予算範囲内での活動を行っています。 | 2 |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | | |
| 財源の確保 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である | 国からの特別交付金としての補填が行われています。 | 2 |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | | |

6 改善及び事務事業の方向性 <Action>

評価者 課室長氏名 宮本憲一

| 総合評価と今後の方向性 | 妥当性 | | | | 業務改善についての今後の方向性 | |
|---------------------------|----------|--------|----------|----|-----------------|--|
| | | 0点 | 1点 | 2点 | 3点 | |
| | 有効性・効率性 | いずれか0点 | D | C | C | C |
| | いずれか1点 | C | C | C | C | |
| | 合計4点 | C | C | B | B | |
| | 合計5点 | C | B | B | A | |
| | 合計6点 | C | B | A | A | |
| A 業務の内容は適切である | | | | | | |
| 前年度評価 | A | | 前々年度評価 | | | |
| 成果 | 投入コスト | | 成果の方向性 | | コストの方向性(関与人件費含) | |
| | | 皆減 | 縮小 | 維持 | 拡大 | |
| | 向上 | | C | B | A | 吉野材付加価値調査実施により自分達が積極的に課題解決に動き出したことから、その状況を見守りながら今後の方向性(関与)を検討すること。 |
| | 維持 | | E | D | | |
| | 縮小 | | F | | | |
| 休廃止 | | G | | | | |
| G 終了廃止 = 終了・廃止・民営化 | | | | | | |
| 前年施策評価方針 | | | A | | 成果向上・費用拡大 | |

平成28年度 事務事業評価表

事業No. 111

記入日 平成 29 年 6 月 24 日
 記入者 氏名 山本 智康

1 事務事業の位置付け <Plan ①>

| 重点 | 事務事業名 | 担当課室名 | 新規・継続 | 事業開始年度 | 完了(予定)年度 | 事業区分 |
|----------------------|------------------------------|------------------|------------------------------|----------------------|-----------------|-----------|
| | 地域おこし協力隊(農林業)事業(木工部門) | 産業観光振興課 農業振興室 | 新規 ○ 継続 | 平成 24 年度 平成24年度以前 | 平成 年度 ○ 継続予定 | ソフト事業(任意) |
| まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け | | | 第4次総合計画 施策の大綱の位置付け | | | |
| 基本目標 | 基本目標 I 地域経済を活性化し、安定した雇用を創出する | 政 策 | 政策2. 自然・環境・産業が調和した持続可能なまちづくり | | | |
| 講ずべき施策 | ②基幹産業の強化による地域経済の活性化 | 基本施策 | 基本施策2.吉野の魅力を活かした産業の振興 | | | |
| 主要な取り組み | 木工業・林業・農業への協力隊に対する支援等 | 施 策 | 施策1.農林漁業の振興 | | | |

2 事務事業の概要 <Plan ②>

| | |
|---|--|
| 対 象 (誰・何を対象として) | 隊員 |
| 意 図 (対象をどのような状態にしたいのか) | 町内の木工業の活動する環境を整え、木工関連事業の構築と木材産業の活性化に繋げて行く。 |
| 手 段 (対象を意図する状態にするため、どんな業務・活動をしたか) | 町内の木工業の現状把握を行い、木工事業者と連携しながら玩具等の開発を行って木工の振興に努める。また、3年後には、木工業で創業し定住する。 |
| 役割分担 (まちづくり基本条例に基づき、個人、地域とどのような役割分担をして事業推進したか) | 個人レベル 町内産材を利用した木製品の利用に努める。 町内会レベル 協力隊と連携して木材利用に努める。 自治協レベル 協力隊と連携して木材利用に努める。 |

3 年度別計画と事業費 <Do ①>

| | | | | | | |
|------------|------------|------------------------|------------|------------|------------|------------|
| | | 事業期間：平成 28 年度～平成 32 年度 | | | | |
| | 単位 | H28(決算) | H29(予算) | H30(見込) | H31(見込) | H32(見込) |
| 総費用 | | 8,223 | 12,871 | 12,871 | 12,871 | 12,871 |
| 費用内訳 | 直接事業費 | 千円 7,352 | 12,000 | 12,000 | 12,000 | 12,000 |
| | 人件費 | 871 | 871 | 871 | 871 | 871 |
| | (関与人数) | 人 0.11 | 0.11 | 0.11 | 0.11 | 0.11 |
| 財源内訳 | 特定財源 | | | | | |
| | 国・県支出金 | | | | | |
| | 地方債 その他 | | | | | |
| 一般財源 | | 8,223 | 12,871 | 12,871 | 12,871 | 12,871 |
| 指標1単位あたり費用 | 千円 | 8,223 | 12,871 | 12,871 | 12,871 | 12,871 |
| 指標値②(隊員数) | 人 | 2 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| ①÷② | 千円 | 4,112 | 4,290 | 4,290 | 4,290 | 4,290 |
| 全 体 計 画 | | | ・活動に対する負担金 | ・活動に対する負担金 | ・活動に対する負担金 | ・活動に対する負担金 |

4 事業の評価指標 <Do ②>

(上段:目標、下段:実績)

| 指標名 | 単位 | 基準値 H27年度 | H28 | H29 | H30 | H31 | H32 |
|-----------|----|--------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 協力隊の人数 | 人 | 1 | 2 | 3 | 3 | 3 | 3 |
| イベント等への参加 | 回 | 0 | 4 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| 定住に繋がった隊員 | 人 | 0 | 0 | 1 | 2 | 4 | 4 |

5 事務事業の事後評価 <Check>

| 評価の視点 | 項目 | 評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策 | 判定 |
|---|---|---|----|
| 継続実施の必要性 (事業廃止による影響はあるか、事業の緊急性や町民のニーズはあるか。) | <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である | 町と地域のパイプラインとして、製材関係業界との調整役としての協力隊の役割は非常に大きいです。また専門職の人材育成としても、効果は大きいと考えています。 | 3 |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い | | |
| 町関与の妥当性 (町が主体で取組むべき事業か。) | <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である | 町の嘱託職員としての雇用関係から考えても、町が取り組むべき内容であります。 | 3 |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い | | |
| 役割分担の適切性 (「個人」「地域：町内会自治会レベル」「地域：自治協議会レベル」が担える部分はないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である | 協力隊業務の役割分担は、町以外に検討の余地はありません。 | 3 |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い | | |
| 目標・意図の達成度 (評価指標目標値やサービス水準の妥当性を勘案し、意図をどの程度達成しているか。) | <input checked="" type="checkbox"/> 目標を達成している | 地域とのパイプラインとしての役割と、PRや事業実施のサポート役として活動しています。 | 3 |
| | <input type="checkbox"/> 目標をやや下回った | | |
| | <input type="checkbox"/> 目標を大きく下回った | | |
| 手段の有効性 (現状の手段が最も有効か、他の手段により更に成果向上が図れないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である | 協力隊の業務内容から考えると、手段や成果に問題はありませぬ。 | 3 |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | | |
| 他団体との連携 (国・県・他市町村、企業、団体等との連携、活用により更に成果向上が図れないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である | 関係団体と協力隊は、指導・助言を受けながら良好な関係が築かれております。 | 3 |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | | |
| 業務の効率化 (業務手順、内容に見直しの余地はないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である | 個々の能力に応じた活動を行っており、現在の業務は妥当であります。 | 3 |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | | |
| 投入コストの適切性 (投入するコスト(予算・人件費)は適正か、削減の余地はないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である | 協力隊としての、国の基準に合わせた予算規模内で活動を行っています。 | 3 |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | | |
| 財源の確保 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である | 国からの交付金としての補填が行われています。 | 3 |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | | |

6 改善及び事務事業の方向性 <Action>

評価者 課室長氏名

| | | | | | | | |
|---------------|-------|---------------|--------|-------|----------------------|--|--|
| 総合評価と今後の方向性 | 妥当性 | | | | 業務改善についての今後の方向性 | | |
| | | 0点 | 1点 | 2点 | 3点 | | |
| | 有効性 | いずれか0点 | D | C | C | C | 協力隊として定住し、自らの進むべき方向性を見いだして頂きたい。また、木材関連団体や地域住民との繋がりがりや連携による新たな事業展開を行って頂きたい。町としても支援を引き続き行うように努めます。 |
| | | いずれか1点 | C | C | C | C | |
| | | 合計4点 | C | C | B | B | |
| | | 合計5点 | C | B | B | A | |
| | | 合計6点 | C | B | A | A | |
| | | | | | | | |
| | | A 業務の内容は適切である | | | | | |
| | 前年度評価 | A | 前々年度評価 | A | | | |
| 成果 | 投入コスト | | | | 成果の方向性 | | |
| | | 皆減 | 縮小 | 維持 | 拡大 | 地域住民や木工業者との繋がりをもち、吉野材の魅力発信や新たな製品の創出を行うこと。地域住民とコミュニケーションを取りながら活動を行って頂きたい。 | |
| | 向上 | | C | B | A | | |
| | 維持 | | E | D | | | |
| | 縮小 | | F | | | | |
| 休廃止 | G | | | | | | |
| B 成果向上・費用維持 = | | | | 生産性向上 | 前年施策評価方針 B 成果向上・費用維持 | | |

平成28年度 事務事業評価表

事業No. 112

記入日 平成 29 年 6 月 13 日

記入者 氏名 浦谷 仁規

1 事務事業の位置付け <Plan ①>

| 重点 | 事務事業名 | 担当課室名 | 新規・継続 | 事業開始年度 | 完了(予定)年度 | 事業区分 |
|----------------------|-------------|----------------------|--------------------|------------------------------|----------|-----------|
| | 住宅リフォーム助成事業 | 暮らし環境整備課 まちづくり振興室 | ○ 継続 | 平成 23 年度 | 平成 30 年度 | ソフト事業(任意) |
| まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け | | | 第4次総合計画 施策の大綱の位置付け | | | |
| 基本目標 | | | 政策 | 政策2. 自然・環境・産業が調和した持続可能なまちづくり | | |
| 講ずべき施策 | | | 基本施策 | 基本施策2. 吉野の魅力を活かした産業の振興 | | |
| 主要な取り組み | | | 施策 | 施策3. 木材関連産業の振興 | | |

2 事務事業の概要 <Plan ②>

| | |
|---|---|
| 対象 (誰・何を対象として) | 住民 |
| 意図 (対象をどのような状態にしたいのか) | 町内の施工業者並びに町内の木材を利用して住宅リフォームを行うことで地域の活性化を図り、安心して住み続けられる住まいづくりを行います。 |
| 手段 (対象を意図する状態にするため、どんな業務・活動をしたか) | 事業の周知を行い、町内の施工業者並びに町内の木材を利用して、住宅リフォームに要した費用として工事費の15%・木材購入費の40%を併せた金額 上限20万円を助成しています。 |
| 役割分担 (まちづくり基本条例に基づき、個人、地域とどのような役割分担をして事業推進したか) | 個人レベル 住宅の改修には吉野材を利用します。 町内会レベル 自治協レベル |

3 年度別計画と事業費 <Do ①>

事業期間：平成 28 年度 ~ 平成 30 年度

| 単位 | | H28(決算) | H29(予算) | H30(見込) | H31(見込) | H32(見込) |
|------------|---|----------------------------|----------------------------|---------|---------|---------|
| 総費用 | | 2,388 | 5,188 | 5,188 | 0 | 0 |
| 費用内訳 | 直接事業費 | 千円 1,200 | 4,000 | 4,000 | | |
| | 人件費 | 1,188 | 1,188 | 1,188 | 0 | 0 |
| | (関与人数) | 人 0.15 | 0.15 | 0.15 | | |
| 財源内訳 | 特定財源 | | | | | |
| | 国・県支出金 | | | | | |
| | 地方債 | 千円 769 | 4,000 | 4,000 | | |
| 一般財源 | 1,619 | 1,188 | 1,188 | 0 | 0 | |
| 指標1単位あたり費用 | ①÷② | | | | | |
| 全体計画 | 町内でお住まいの方が自ら町内の建築業者及び町内で生産・製造された木材を使用してリフォーム工事に対して補助する。 | 事業の周知 ・現地確認 ・補助金交付事務 | 事業の周知 ・現地確認 ・補助金交付事務 | | | |

4 事業の評価指標 <Do ②>

(上段:目標、下段:実績)

| 指標名 | 単位 | 基準値 H27年度 | H28 | H29 | H30 | H31 | H32 |
|-----------|----|--------------|----------------|-------|-------|-----|-----|
| リフォーム助成件数 | 件 | 23 | 30 6 | 20 | 20 | | |
| 助成金額 | 千円 | ## | 6,000 1,200 | 4,000 | 4,000 | | |

5 事務事業の事後評価 <Check>

| 評価の視点 | 項目 | 評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策 | 判定 |
|-------|---|--|----|
| 妥当性 | 継続実施の必要性 (事業廃止による影響はあるか、事業の緊急性や町民のニーズはあるか。) | <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がややある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い | 2 |
| | 町関与の妥当性 (町が主体で取組むべき事業か。) | <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 検討の余地がややある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い | |
| | 役割分担の適切性 (「個人」「地域」町内会自治会レベル「地域」自治協議会レベルが担える部分はないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 検討の余地がややある <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い | |
| 有効性 | 目標・意図の達成度 (評価指標目標値やサービス水準の妥当性を勘案し、意図をどの程度達成しているか。) | <input type="checkbox"/> 目標を達成している <input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回った <input type="checkbox"/> 目標を大きく下回った | 2 |
| | 手段の有効性 (現状の手段が最も有効か、他の手段により更に成果向上が図れないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | |
| | 他団体との連携 (国・県・他市町村、企業、団体等との連携、活用により更に成果向上が図れないか) | <input type="checkbox"/> 適正である <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | |
| 効率性 | 業務の効率化 (業務手順、内容に見直しの余地はないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | 3 |
| | 投入コストの適切性 (投入するコスト(予算・人件費)は適正か、削減の余地はないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | |
| | 財源の確保 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | |

6 改善及び事務事業の方向性 <Action>

評価者 課室長氏名 紺田 正俊

| 総合評価と今後の方向性 | 妥当性 | | | | 業務改善についての今後の方向性 | | |
|----------------------|-----|-----------------------------|----|----------|-----------------|---|---|
| | 0点 | 1点 | 2点 | 3点 | | | |
| 総合評価と今後の方向性 | 有効性 | いずれか0点 | D | C | C | ・町内の建設業・木材関連産業の活性化を図り、町民の安心安全な住環境の為に必要とありますが、関係団体との連携を密にし情報共有と周知を強化します。 | |
| | 効率性 | いずれか1点 | C | C | C | | C |
| | | 合計4点 | C | C | B | | B |
| | | 合計5点 | C | B | B | | A |
| | | 合計6点 | C | B | A | | A |
| | | B 課題が少しあり業務の一部見直しが必要 | | | | | |
| 前年度評価 | A | 前々年度評価 | A | | | | |
| 今後の方向性 | 成果 | 投入コスト | | | | ・指標値を達成できるように周知方法を検討すること。関係課並びに関係団体とも連携し、情報の共有に努めること。 | |
| | | 皆減 | 縮小 | 維持 | 拡大 | | |
| | 向上 | | C | B | A | | |
| | 維持 | | E | D | | | |
| | 縮小 | | F | | | | |
| 休廃止 | G | | | | | | |
| B 成果向上・費用維持 = | | 生産性向上 | | 前年施策評価方針 | D 成果・費用とも維持 | | |

平成28年度 事務事業評価表

事業No. 113

記入日 平成 29 年 6 月 13 日

記入者 氏名 浦谷 仁規

1 事務事業の位置付け <Plan ①>

| 重点 | 事務事業名 | 担当課室名 | 新規・継続 | 事業開始年度 | 完了(予定)年度 | 事業区分 |
|----------------------|----------|----------------------|--------------------|------------------------------|------------------|------|
| | 住宅新築助成事業 | 暮らし環境整備課 まちづくり振興室 | 新規 ○ 継続 | 平成 23 年度 ○ 平成24年度以前 | 平成 30 年度 継続予定 | |
| まち・ひと・しごと創生総合戦略の位置付け | | | 第4次総合計画 施策の大綱の位置付け | | | |
| 基本目標 | | | 政策 | 政策2. 自然・環境・産業が調和した持続可能なまちづくり | | |
| 講ずべき施策 | | | 基本施策 | 基本施策2. 吉野の魅力を活かした産業の振興 | | |
| 主要な取り組み | | | 施策 | 施策3. 木材関連産業の振興 | | |

2 事務事業の概要 <Plan ②>

| | |
|---|---|
| 対象 (誰・何を対象として) | 若年層の定住者 |
| 意図 (対象をどのような状態にしたいのか) | 若年層の定住人口の増加を図るとともに、林業・製材業及び住宅関連産業の活性化を図ります。 |
| 手段 (対象を意図する状態にするため、どんな業務・活動をしたか) | 若年層が定住のために新築される住宅が、木造軸組工法で80%以上が町内で生産・製材した木材を使い、町内の施工業者により木造住宅を新築する方に対し、上限額 2,000,000円を助成しています。 |
| 役割分担 (まちづくり基本条例に基づき、個人、地域とどのような役割分担をして事業推進したか) | 個人レベル 吉野材の利用促進の為に新築には木造住宅を検討します。 町内会レベル 転居者の受け入れ体制を整備します。 自治協レベル |

3 年度別計画と事業費 <Do ①>

事業期間：平成 28 年度 ~ 平成 30 年度

| 単位 | | H28 (決算) | H29 (予算) | H30 (見込) | H31 (見込) | H32 (見込) |
|------------|---|----------|-----------------------------|-----------------------------|----------|----------|
| 総費用 | | 554 | 2,554 | 2,554 | 0 | 0 |
| 費用内訳 | 直接事業費 | 千円 0 | 2,000 | 2,000 | | |
| | 人件費 | 554 | 554 | 554 | 0 | 0 |
| | (関与人数) | 人 0.07 | 0.07 | 0.07 | | |
| 財源内訳 | 特定財源 | | | | | |
| | 国・県支出金 | | | | | |
| | 地方債 | | 2,000 | | | |
| 一般財源 | 554 | 554 | 2,554 | 0 | 0 | |
| 指標1単位あたり費用 | 千円 | | | | | |
| ①÷② | 千円 | | | | | |
| 全体計画 | 若年層の定住人口の増加を図るとともに、林業、木材関連産業及び住宅関連産業の振興の為に、町内に木造住宅を新築された方に助成する。 | | ・事業の周知 ・現地確認 ・補助金交付事務 | ・事業の周知 ・現地確認 ・補助金交付事務 | | |

4 事業の評価指標 <Do ②>

(上段:目標、下段:実績)

| 指標名 | 単位 | 基準値 H27年度 | H28 | H29 | H30 | H31 | H32 |
|----------|----|--------------|------------|-------|-------|-----|-----|
| 住宅新築助成件数 | 件 | 0 | 2 0 | 2 | 2 | | |
| 助成金額 | 件 | 0 | 4,000 0 | 4,000 | 4,000 | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |

5 事務事業の事後評価 <Check>

| 評価の視点 | 項目 | 評価結果の判断理由及び課題認識、課題に対する対応策 | 判定 |
|---|--|---|----|
| 継続実施の必要性 (事業廃止による影響はあるか、事業の緊急性や町民のニーズはあるか。) | <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である | 木造住宅新築にかかる費用の一部を助成していることから事業廃止により、もう材の利用にも影響がでます。 | 2 |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い | | |
| 町関与の妥当性 (町が主体で取組むべき事業か。) | <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である | 町内で生産・製造された木材を使い、町内の施工業者に依頼する事から、地域の活性化・定住促進につながるから、妥当です。 | 2 |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い | | |
| 役割分担の適切性 (「個人」「地域」町内会自治会レベル「地域」自治協議会レベルが担える部分はないか) | <input type="checkbox"/> 適正である | 町の基幹産業である林業・木材関連産業及び住宅建築関連産業の振興を図っている。又、制度において建築業者からもPRしています。 | 2 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 検討の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 検討の余地が多い | | |
| 目標・意図の達成度 (評価指標目標値やサービス水準の妥当性を勘案し、意図をどの程度達成しているか。) | <input type="checkbox"/> 目標を達成している | 若年層の定住を進めていく中で、予算は1件分であるが問い合わせがあったが、問い合わせ内容がリフォーム対象となったことから、目標値に達成できていない状態です。 | 2 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回った | | |
| | <input type="checkbox"/> 目標を大きく下回った | | |
| 手段の有効性 (現状の手段が最も有効か、他の手段により更に成果向上が図れないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である | 木造住宅新築にかかる費用の一部を助成することで木材の利用促進並びに建築関連産業の振興に繋がっていることから適正です。 | 2 |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | | |
| 他団体との連携 (国・県・他市町村、企業、団体等との連携、活用により更に成果向上が図れないか) | <input type="checkbox"/> 適正である | 建築関連団体への周知を行い連携を図っていることから適正です。今後は、空き家コンシェルジュ等への連携と周知が必要です。 | 2 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 改善の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | | |
| 業務の効率化 (業務手順、内容に見直しの余地はないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である | 申請者からの申請書類の確認、要綱に沿った内容の申請書類であるかの確認を行い、交付決定、確定通知、補助金支出の流れで業務そのものの効率化を図る点はありません。 | 3 |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | | |
| 投入コストの適切性 (投入するコスト(予算・人件費)は適正か、削減の余地はないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である | 現在、1件分の予算を計上しておりますが、必要最低限のコスト投入である。昨年度、今年度と申請件数が0件であり、次年度も若年層の定住促進のため必要最低限のコストです。 | 3 |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | | |
| 財源の確保 (受益者負担は適正か、国、県等の補助等はないか) | <input checked="" type="checkbox"/> 適正である | 現在の財源は地方債からとなっており、一般財源は抑えられている。 | 3 |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地がややある | | |
| | <input type="checkbox"/> 改善の余地が多い | | |

6 改善及び事務事業の方向性 <Action>

評価者 課室長氏名 紺田 正俊

| 総合評価と今後の方向性 | 妥当性 | | | | 業務改善についての今後の方向性 | | | |
|----------------------|-----------------------------|----------|-----------------|-----------------------------|-----------------|--|-----------------|---|
| | 0点 | 1点 | 2点 | 3点 | | | | |
| 総合評価と今後の方向性 | 有効性・効率性 | いずれか0点 D | C | C | C | 町内の建設業・木材関連産業の活性化を図ると共に、若年層の定住推進を図る為に関係団体等へ広く周知し、事業を進めます。実績が少ない事から周知方法並びに他団体との連携を行い目標数値を目指します。 | | |
| | | いずれか1点 C | C | C | C | | | |
| | | 合計4点 C | C | B | B | | | |
| | | 合計5点 C | B | B | A | | | |
| | | 合計6点 C | B | A | A | | | |
| | B 課題が少しあり業務の一部見直しが必要 | | | | | | | |
| 前年度評価 | A | | 前々年度評価 A | | | | | |
| 総合評価と今後の方向性 | 成果 | 投入コスト | | | | 成果の方向性 | コストの方向性(関与人件費含) | |
| | | 皆減 | 縮小 | 維持 | 拡大 | | | |
| | 向上 | | C | B | A | | | ・指標値を達成できるように周知方法を検討すること。関係課並びに関係団体とも連携し、情報の共有に努めること。 |
| | 維持 | | E | D | | | | |
| | 縮小 | | F | | | | | |
| 休廃止 | G | | | | | | | |
| B 成果向上・費用維持 = | | 生産性向上 | | 前年施策評価方針 B 成果向上・費用維持 | | | | |